

## 設立趣旨書

かつて里山には豊かな生物相と自然の豊かな恵みがありました。

里山を中心とする人々の生活は、人と自然、又は自然と生き物、人と生き物が共生し自然循環的社会とも呼ばれ、近年に至るまで日本各地で見られそれぞれ固有な伝統と知恵が育まれておりました。

横浜には谷戸と呼ばれる地形が全域に存在しておりました。谷戸は横浜の里山の重要な景観のひとつであり自然環境そのものでした。

昭和30年代から始まる高度経済成長の結果、エネルギー事情や人々の生活様式が変わり、大量生産、大量消費、大量廃棄の時代になりました。また港北ニュータウン計画が始まり、このニュータウン計画で谷戸はわずかに残されましたが里山の重要な景観である山林や竹林は長い間至るところで管理放棄がなされ荒廃が進みました。計画で残された緑の環境も人の手を離れば荒廃してゆくしかありません。

地球規模の温暖化防止策が論じられる昨今、自然環境を保全し自然と共生する活動について、港北ニュータウンの計画に関わった機関や人々は、この残された自然環境を更に修復と保全を行い、後世まで伝えたいと考え、その維持管理を市民の手に委ねました。

私たちは平成14年度、都筑中央公園自然体験施設において、横浜市から管理委託を受け活動を始めました。平成18年度には都筑中央公園自然体験施設の指定管理者の指定を受け更なる活動に邁進して来ましたが、「公の施設」の管理における多様な市民ニーズに対するサービスの向上と効率性の追求を行うと共に、事業の遂行上、当団体の活動の社会的貢献度や信頼性を高め、また社会的責任を全うするべく、特定非営利活動法人都筑里山倶楽部を設立をすることといたしました。

今こそ、市民の自然回帰へのニーズを充足すべく、地域に根ざした市民による里山の維持・保全活動を専門的でまた長期的な視野に基づき、持続的な活動を展開することが求められる時代と言えましょう。

平成19年12月12日

特定非営利活動法人 都筑里山倶楽部

設立代表者 小山 正